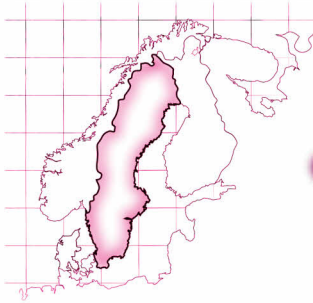
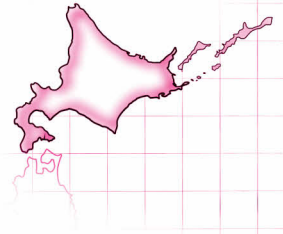




ペリフェリ ⑩



アール・ブリュットの思い出

日本赤十字社 常任理事 渡邊 芳樹

一般にはよく知られていない優れた芸術作品群がある。正規の教育を受けていない主に精神・知的障害者等による生の芸術アール・ブリュット（仏語）。

2012年大使として地方出張中に立ち寄った王宮でスウェーデン在住の日系知的障害者モモコタカマツさんによるスウェーデン王族の姿をデフォルメした作品群に出合った。初めてのアール・ブリュット体験に衝撃を受けた。

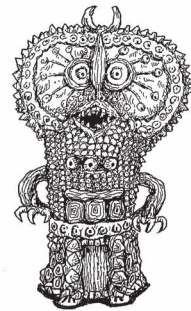
その後13年、（社福）グロー理事長北岡賢剛氏のスウェーデン来訪がきっかけとなった。

北岡氏は15年仏英等で活躍するアートディレクター小林瑞恵氏をスウェーデンに派遣した。それまでスウェーデンのアール・ブリュットは殆ど認識されていなかった。私も16年6月に小林氏等とともに英、仏、スイス、オーストリア各国の著名な専門家を往訪し、その事情を確認した。同年11月北岡氏等と共に本格的なスウェーデンのアール・ブリュット探求の旅を挙行、

さらに17年秋には仏ナントでの障害者文化芸術国際交流事業にも参画した。

日瑞外交関係150周年の18年夏に首都近郊ソレンチューナで初めての両国共同アール・ブリュット展を開催した。同年8月には渡邊・小林共著の「スウェーデンのアール・ブリュット発掘」（平凡社）も出版できた。

これらの動きと並行し18年6月障害者文化芸術推進法が制定された。北岡氏が支援する障害者芸術文化推進議員連盟（会長は参議院議員衛藤晟一氏）の成果であり、世界に類を見ない法律である。私も原案作成等に関



わった。これで国及び地方自治体がアール・ブリュットと称するか否かを問わず地域の障害者等による芸術推進に取り組むことが法律上の努力義務とされた。各地で地域の特性を踏まえ幅広く推進されるようになった。

私の郷里岩見沢市では20年に松野哲市長が北海道全域の拠点施設としてアール・ブリュット常設展示施設を市内中心部に設置した。（社福）ゆうゆう理事長大原裕介氏の力が大きかった。

福祉の基本理念ノーマライゼイションが障害者等の生きづらさの凹を埋めるための必要な支援による社会的平等の実現に真髓があるとすれば、アール・ブリュットは障害者等の凸と突出する個人の個性を尊重しその能力の「社会的評価」を求めるものであり、従来の福祉モデルの先に開ける新たな世界とも言える。

今では包摂と共生をめざす社会に欠かせない基盤の一つとなっている。